葵上
黒塚
山姥
紅葉狩
右卓
十一

912.3
ア

奏上

宸詞

[illegible]

[illegible]

[illegible]

無さもせやとなり　ものうて様にはいり
の人　天清浄地清潔四外清潔六根清潔よ
り見人ぞ。今そよりて所。也源の。流乃弱に。
銀おりう賞　三の車に法華経遊戯宅の
門とやせぬん。　夕新の。宮の所也車や
流るるにらそ。乃牛の車　遊也牛の車
乃。遊ハ牛の車の如ひ所ひるるん。△

△丸輪也車乃日の如ひ。新田生を出
らそ。乃牛の宮くそ也を泡法乃世の男の前に
日の花いきふの男とおそうねとそとうな
也車のうにより人の振ぎ狂そんぞ。
所ぬとう思ひ。世ありやとうい獣ひと様
のうに思ひの。光源氏の。

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

身おてうしもありうらもれの振舞いそさうもと
こへいへ。唯思ひとゆり捨へ。いやいと思ふ。
今ようてハけ無まとそ振よ言ちゆう
とうそハ　ひとうて言ようそわりて捨ようそ
若とうふ　今れ振ふみう軽ハ　涙
恵りうう　身をうハ　思ひきやや
思ひきま　うめりあうらいの
ハ　やぐ雲振れ物ふて唐衣ようの色の
ふ　ぐ　ぐ　ぐ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

行者を加持して、彼の行者の法を
ばさぶ。脇金剛、乃嶺をわぶ。七宝の瓶を
持ち、鎮金剛、不淨を清つる悪辱乃鬼
赤水の微塵のいろをざるもくくと
うんぐびと行のもらそいの小金剛、東方に
降三世明王、最讃三昧陀縛曰、羅南
いろ行者、早降へ降へそらを見ざるく

行者の法を
くあるべし。童子、数珠をかけ、法螺を吹く。東方
降三世明王、南方軍陀利菩薩、
西方大威徳明王、北方金剛夜叉明王、
中央大聖不動明王、最讃三昧陀縛曰、
羅南、施多摩訶嚕遮那婆婆多耶吽多
羅他漢滿聽我說者得大智恵智我

身者即身成佛　あらくおそろしの姿
若変化　見まほしそ悪霊ならみもせず
かまし　清涼の変化　なれらく悪鬼
ひと　あらひ　悪魔　出乃　ぬかく　業
護　家　来現　成佛　得脱の身と
ゆかそ　迷　さく

黒塚

橋　北　薄　黒　乃　ら　ひ
乃　ま　ん　ん　ん　ん　ん　ん
乃　ん　ん　ん　ん　ん　ん　ん
ん　ん　ん　ん　ん　ん　ん　ん
ん　ん　ん　ん　ん　ん　ん　ん
ん

で面白く脚本を拵へて。わるかと言ふて
く狂ゆくを見て紀の藩に成るまでの
間をさうして帰の藩の方へ行く
きの藤兵衛は大きなる犯をして
のを聞き藩奥へ行き藩に来て
く高さの狂ひを見て藩奥へ
来たつて見て居て狂に出て

で面白の脚本を拵へ
ば実に人の狂ひ
を拵へるわけで面白く
朝寝をして
ものを
後藤そ
門に来て
を見て面白の聖を

[illegible]

[illegible]

[illegible]

乃麻の苧丸蓑の世とかの丸様の
麻そ様丸様ひれとそ様丸国の
とか様ふとそ　あまとを我ふとの者乃
受ひ編重様とか様ふとの　さとを今
麻丸ありてかよとなとふとのとを世ふ
国とをとの事いとふとふとの月にひの
事ひ　ひとの様へ麻ひとふとすふの

ふく織の業とそ様ひ　ふひとふとの
宿のふの乃様ふと和麻　月ふとの
国乃中に　麻麻の糸とふとへ麻麻
乃糸とふとへ苧ふ今にのさとの
様ふうんそのふのまとも　世とふ業
ふそ物ふけ重ふふ様ふ男に生と
文ふふふか様ふ世に生重ふとふ

きんぬ　賀茂乃ちはまに　ちはまに　ちはまに
一ら　緑毛の車とも　そもそも　糸櫛
風よ　吹ちら　ちらす　春の書
猶よ　出り　秋　糸　書　月かすもあまら
ぬん　今ちる　秋り　糸の　ちる　糸の
ぬ　ちる　ちる　ちる　ちる　ちる　ちる
の　ちる　ちる　ちる　ちる　ちる　ちる
の　ちる　ちる　ちる　ちる　ちる　ちる

のこ　独なれ　わす　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ
ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ　ぬ

言語道断の事を申し出だす人の国ふ
とゝろんう方ゆくらるゝは　さてハやうて有り
ゆへ　かゝるあるゝ北国の中を物の落
より強く見まハ人の記録に数たゝず彩
と云ハ稀也ゝ腰血急難滝し奥様
ゆゝ胞腰し虐鋼おとくを烟壊せり
いう程ゝ滝奥ゝ安達の原の黒塚に
ハ鬼の物也　あそこゝやう高原の国と滝奥
の安達ゝ原の黒塚ゝ鬼ゝ有りと流ゝ人ゝ
ひゝかゝ　天　ひゝ海ゝ肝ゝ生ゝ
角ゝ方ゝ孫ゝ長ゝ海ゝ出ゝ
ゝ長ゝ紅ゝ　大コ　早苗　ゝ
ゝ見ゝ国ゝ中ゝ
ゝ国ゝ中ゝ
ゝ腹ゝ

[illegible]
威陽宮の[illegible]
[illegible]
雷公稲妻天[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]の付[illegible]ふいとゆかしかりしかば釈のけ[illegible]
来たりあるを世語ひとの祖よ善えちへ[illegible]
わり変りて伝ひ間我[illegible]ほ[illegible]唯と伝
法[illegible]寺へと[illegible]
波[illegible]志賀の浦[illegible]
山越て神[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

あり者わらひ侍ぬ。[illegible]
うまつらるゝ物ゝ[illegible]
[illegible]
無礼[illegible]の一節[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

我の山姥ゝ山ゝ鬼女ゝ山ゝ鬼女とハ女の鬼ゝ
見ゝ山ゝ山ゝ鬼女とハ女の鬼ゝ
より鬼ゝの山ゝ鬼ゝ山ゝ山姥ゝ山ゝ山姥ゝハ毒ゝ
毒ゝ山ゝ山ゝ毒ゝ毒ゝ毒

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ゆゝ岩松巍々として風光樂のごとく
ゆゝ
ゆゝ
ゆゝ

うぢ海て屋敷名を久保の浦世と後
世一節も犯云婦道の道ふくに儒佛
業の間えうおう山名婦備後ヤ姫
ゆう山乃　曰上　書を揃よさうを作し　紀を
　　曰
秋らさやひさうの色乃
　　曰
狩て　月乃高ふと山四乃　曰　名ふう元
　　曰
樹く河義の雲乃　富とさうひく山四乃

山

四乃山四乃山乃　曰上　橋四乃鳥れぬ京狐乃雲
　　曰
　　曰
　　曰

紀塵物

時雨ふるいそのかみ山の桜かりそめにこそ出湯をもとめん　ぞ

今ぞ思ひしれ雲井八重むらさきの色にそめけ

ぬる宿のさくらはあそこも秋の

なりて雨のもるさくらかりそめにこそ舟出

ひとえにおもうさくらまの美ぞく

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

信濃國善光寺へと意作　　文前佛
ゐ既去後佛ハ世に出ぬ衆の
中間に出れ来ぐ何を思ふ
適受ふ人ハ身をひおひ如
来の教法あるの光ぬ
称ふ事ハ
小かとかとかへるの善

母懸てうひ路へ行く詣でんと思ふ
さかりにわさわんよ然てそれに情に
方便の秘術もに通ずれ乞ひ
何ぞいるけさひそうわうに去の車と
化を作せとあめうりもの父師よわも
海まうとうに為めく社へさあに
ひさめうにあけさらぐうの去てを

捨ませうとうにあけ乳母今うく
まりひて何とるけさあ海ひとあ
痛りやの捨ませすとも流みて
若光へにまりうく英父師にあ海
まうとうにあけ化生く思ひ
痛りやへ蠱輿蜀車に石に海
解れるうの円月も城よあらち

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
露の命とうばきんと念仏ア報
と祈願ひろひ物と[illegible]心ばへの
わるれまはく事新又の行ふ法
[illegible]
分をば思ひなるもうれ様と結法
國よりの為光寺ふも[illegible]

く何と云ふ[illegible]叫ぶ[illegible]
恐まるる[illegible]私[illegible]
[illegible]わ[illegible]國[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

藤原の朝臣誠をあらしぐ鬼乃城より
一首乃奇を送れ其奇たいらく元ともに
本色我たゝ乃國なまへ いらく鬼の
宮と定めん 此奇の理よく鬼も
めさりあれハ千方も云ハもて一天
四海波とうらあらめ給へハ國も動う
ぬ鎮の地乃東ハ我ら送ゆもせからら

ぬ たゝ乃ゆゆの國なかをハ獨ちう給
給ふ 孫文書岡信濃守や 日上 お弟
乃揚うひて宮ゆゆ ゆゆ
声うゝ 法へ悪ゝれの力うで
物をうゝ佛乃ゆゆ
まも孫へゝおまゝ乃神ゝ
そうへゝ佛ゝ宮よゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ようようにおもひて、夫女宿縁也、
根源を尋ぬれば、有相無相の義会よ
り生じ、とかくまよひ流転むらくして、車の輪にめぐるよ
うにぐ羅況の宮ふくは鳥の林よ
わたるあるあり、明ずしるる我
ふ今ぐ界うり生ぬうくしいかぐ

見仏聞法乃結縁、もかされば、
来れるのこもぬ、とぬ、ぬ、
元ようの悲願ふぐ、仏戒厳摂、
ひさ、ぬ、念仏の門に仏門にむ、
ぬ、ぬ、と五劫思唯乃本願なり
さ、ぬ、ふや無心、極重悪人無他方
便唯積称名、得生極楽とうも結

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

右下係諸者往々板
行雖多言違章誤難
計勝今亦闕不善補
不足當流秘傳之加
拍子令改正者也

元禄二歳[illegible]初冬吉辰

[illegible]南通三町目

[illegible]屋喜兵衛